

1. 科目名 (単位数)	心理療法特殊研究 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP8288
2. 授業担当教員	鶴 光代	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	演習、発表		
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7. 講義概要	<p>心理療法の種類は心理療法の数だけある、といわれるぐらいメジャーなものからマイナーなもの、あるいは複数の療法を1つにまとめたものなど様々なものがある。この授業では、比較的メジャーなもの、あるいは歴史的にみて重要と思われるものについて解説する。</p> <p>また、治療過程においては、常に当該個人の優れた面、長所に着目し、それを重要な手がかりにして「問題性」を改善していくという「治療マインド」が必要である。その意味で近年重要視されているポジティブ心理学の考え方を随時取り入れて、解説する。</p> <p>人間はともすれば自己のネガティブな面に目が行きやすいが、むしろ自己のポジティブな面に着目し、自己の成長、発展、改善をしていくということが大切である、というのがポジティブ心理学の本質である。特に「抑うつ」(人間のネガティブな面)の実験心理学的研究者であった米国心理学会長のセリグマンがこのことを主唱していることも意義のあることだといえる。</p> <p>この授業では、教科書や参考書、ビデオ教材を中心に解説する。</p>		
8. 学習目標	ポジティブ心理学の考え方と心理療法の理論と実際をマスターする。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業において、教科書・参考書を用い、レジュメを作り、発表してもらう。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 特になし。各回レジュメを配布する。</p> <p>【参考文献】 乾吉佑他編、鶴光代他著 「心理療法ハンドブック」 創元社 2006年</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 学習目標を達成できているか</p> <p>○評定の方法 成績は、発表の内容とレポートと出席点を総合して評価する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	大学院では学問的研究を行うことを自覚すること		
13. オフィスアワー	授業の前後に行う		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1～5. テーマ	心理療法とは (イントロダクション)		
【学習の目標】	心理療法の本質について理解する。		
【学習の内容】	心理療法の歴史、種類、個々の内容、技法などの「概容・要点」について学ぶ。		
【キーワード】	心理療法の歴史、理論と技法、倫理、ICD10。		
【学習の課題】	上記の学習内容をふまえて、心理療法のあり方を習得する。		
【参考文献】	乾吉佑他編、鶴光代「心理療法ハンドブック」 創元社 2006年		
【学習する上での留意点】	とくに心理療法の「あり方」を理解すること。		
6～13. テーマ	代表的な心理療法の理論と技法		
【学習の目標】	心理療法の代表的なものについて「理論と技法」を理解する。		
【学習の内容】	精神分析、認知行動療法、遊戯療法、イメージ療法、内観療法、森田療法、ブリーフセラピー、交流分析、臨床動作法、ナラティブセラピー、グループ療法、理性感情行動療法。		
【キーワード】	上記、学習内容の記載事項と同じ。		
【学習の課題】	上記の学習内容に記載されている、各種の心理療法の理論と技法の内容と、それぞれの共通性、相違点を習得する。		
【参考文献】	乾吉佑他編、鶴光代「心理療法ハンドブック」 創元社 2006年		
【学習する上での留意点】	とくに個々の心理療法の「理論と技法」を理解すること。		
14～15. テーマ	ポジティブ心理学の考え方、発想		
【学習の目標】	ポジティブ心理学の本質について理解する。		
【学習の内容】	ポジティブ心理学とはなにか、その歴史と内容および、「心理療法への応用」について学ぶ。		
【キーワード】	ポジティブ心理学、フロー理論、ポジティブ感情、幸福感と生きがい、社会的スキル、人間の長所、短所。		
【学習の課題】	上記の学習の目標・内容・キーワードをふまえて、とくにポジティブ心理学の内容と、ポジティブ心理学の発想をどのようにして心理療法へ応用できるかを習得する。		
【参考文献】	島井哲志編 「ポジティブ心理学」 ナカニシヤ出版 2006年		
【学習する上での留意点】	とくにポジティブ心理学の「心理療法への応用」について理解すること。		